

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | | 外部評価(評価機関記入) | |
|--------------------|-----|---|--|---|--------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 「ゆめの里入山辺理念」を作り掲示したり、職員会議で地域に貢献する活動について話し合うことで、役割について理解したうえで業務にあたっている。 | 『ゆめの里入山辺』の理念を掲示したり、一人ひとりの尊厳を大切に、自分らしい暮らしを支えるケアを実現できるように、職員会議で話し合い、日常生活の支援をしています。地域密着型として、地域に根差し、住み慣れた地域で、入居者様の有する能力を維持できる様に援助しています。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。 | 運営推進会議で地域貢献活動について報告したり、また委員の皆様から地域の要望を聞くことで、地域に溶け込み共に協力しあう関係性づくりをしている。 | 運営推進会議の内容を職員に話し、地域行事にも参加できるようにしています。9月に運営推進委員さん達と共に、敬老会を予定していましたが、コロナの5類移行後も油断はできないため、事業所内部だけの開催になりました。野菜果物を、ご近所の農家さんから戴いて食事に提供しています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 今年度はコロナ感染防止のため地域行事は開催されていない。利用者様の作品を地域づくりセンターに展示させていただき、認知症の理解・啓発に取り組んでいる。また、お便りを年4回発行し、配布している。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議を2か月に1回開催し、施設の近況報告や地域からの要望をつかんで日々のサービス向上に努めている。 | コロナ禍の間は文書開催でしたが、推進委員さんが集って2回開催が出来たのを、会議録で確認しました。会議では事故報告から、改善策がマンネリ化しているところを指摘いただき、ヒヤリハットにも、対処の他に予防策を職員で出し合って、利用者様の状態に合わせての予防策を実行しています。防災など地域の課題も話し合いました。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 地域包括支援センターと連携し、今年度は「認知症対応の勉強会」を開講した。運営推進委員会の委員になって頂き、相談してアドバイスを頂いている。包括センター主催の研修にも参加。 | 地域包括センターと連携し、認知症サポーター研修をより具体的に「認知症対応の勉強会」、病状の説明、関わり方など事業所で開催しました。また、PT(理学療法士)からリハビリのポイントなどをアドバイスして頂き、相談にも乗って頂いています。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束についての研修委員会を行い、指針の確認や会議で気付いたことを話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束のないケアに取り組むため、虐待の知識に関して研修委員会を開催して確認し、会議で気づいたことを話し合っています。会議録で確認しました。コロナ感染があった時は、認知症のご利用者様の隔離が大変難しいと、悩まれた時期もあったとのこと。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。 | コンプライアンスチェックを年2回行い、結果を集計し、チェックがついている項目について話し合うことで、なぜ？どう対処すればいいかを話し合い、虐待防止に努めている。虐待防止委員会を年4回開催したり、研修に参加することで、啓発活動もしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 現在、ゆめの里入山辺には成年後見制度を利用している利用者様はいない。しかし、成年後見制度の研修を受講することで体制を整えておく必要がある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 事前申し込みがあった時点で、希望者と連絡を取り、近況を把握している。また入所・退所の際は、契約・解約について話し合う機会を持ち、不安や疑問、家族の思いなどを聞き取っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 今年度、家族会を開催予定。身体拘束についての説明会を予定している。ケアプラン更新時にケア会議にご家族様に参加していただく事で、思いを汲み取るよう努めている。 | ご家族は市内の方がほとんどなので、ケアプランの見直し時に、連絡して来て頂いています。レベルが落ちた時の対応や、介護への希望をお聞きして、プランへ反映できるようにしています。2名の方の看取りの経験も希望があり、やれる精一杯の対応をさせて頂いたようです。今年度は家族会を開催する予定です。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 日頃から、職員の意見を聞く姿勢を持ち、なんでも言い合える関係性を築くよう努めている。職員会議やユニット会議を通じて、お互い意見を出し合える環境・関係づくりをしている。事務所のドアを開放し、管理者に要望や意見を言いやすくなるよう工夫している。 | 運営に関して職員意見を反映し、食事委員会を立ち上げて、栄養士が作成した献立の食材の発注時期や調理方法の調整を行っています。また、夜勤の業務改善などが取り組まれており、書類で確認しました。管理者に意見を言える環境や関係づくりと、ユニット会議・職員会議もお互いが意見を出し合える様に工夫をしています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 希望者には随時面談をしたり、年1回全職員との面談を行うことで、働き方に対する希望や思いを聞き取り、その思いに応えられるよう努めている。リフレッシュ休暇を取り入れ、全職員が取得できる体制を整えている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | コロナ禍の今、外部研修の機会は減っているが、テレビ会議による研修や認知症の内部研修、勉強会、事例発表会等を行い、職員の資質向上に努めている。包括支援センターやリハビリ専門職員により勉強会の実施も出来ている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 法人内の同職種で意見交換会や勉強会があり、質の向上を図っている。他グループホームとの交流会を次年度計画し、開催に向け進めていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|-----------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 入所時にご本人やご家族に、思いや困っていることなどを聞き取り、安心して生活が送れるようユニットリーダーや計画作成担当者と共に、思いを汲み取ったプランの作成に努めている。センター方式シートを活用しニーズの把握をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 施設に預けたことに対する負い目や不安を感じているご家族の心が少しでも和らぐように、施設での生活の様子などをこまめに報告することで、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 関わりを多く持ち、観察をしながら何気ない会話から思いを汲み取り、今何に困っていて何がしたいのか、ニーズの把握をしている。家族と面談し思いを聞きとることで支援に繋げている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 職員と利用者様が馴染みの関係になれるよう生活の中に溶け込み、支え合いながら同じ時間を共有し、ともに協力し合って生活していける関係が作れるよう努力している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 本人の性格や仕事、趣味、家族関係、生活歴などを聞いたり、アルバムを持って来ていただいて、家族との絆を大切に、こまめに施設での生活の様子をお伝えすることで、信頼関係構築に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 家族と過ごす時間がもてるように配慮している。現在感染予防のため、電話で予約、時間の制限をしている。訪問しづらくない様に面会方法を考えていく。外出や外泊の制限も検討していきたい。 | コロナ禍での窓越しの面会から、現在は家族との時間が持てるように電話で予約して頂き、面会室で時間を決めて会って頂いています。面会室が1つしかなく、十分ではないので、面会方法を工夫していきたいとの事です。ご家族からの電話はお繋ぎして会話していただいています。法事やお盆、墓参りなどの制限も検討していきたいとの事です。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 利用者一人ひとりの生活歴や性格を把握することで、良好な人間関係を築けるよう配慮し、居場所を作り、孤立せず過ごせるように努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 契約が終了した場合でも本人の状況を把握し、必要に応じて支援するよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|------------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 利用者様の隣に座り、ゆっくり話をすることで、何気ない言動の中から思いを汲み取ったり、家族に話を聞いて本人の意向を把握し、カンファレンスで意見を出し合っって情報共有している。 | ご利用者様をよく知るために『ひもときシート』を実施しています。入浴時やトイレに付き添っている時など、ご利用者様の思いや気持ちをお聞きできるようにしています。ご家族に話を聞き、合わせて意向やニーズを把握して、カンファレンスに反映してユニットで情報共有しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 本人から家族関係や、昔の仕事等について話を聞いたり、家族に聞いたりしている。また、センター方式シートを活用し、馴染みの人や生活リズムを把握することで、今までの暮らしが継続して出来るように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 一人ひとりの生活リズムを把握し尊重することで、持っている能力を発揮し、役割ややりがいをもち生活できるよう努めている。今できていることが、半年先や一年先も出来ているように支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 月1回のユニット会議で一人ひとりの状況を検討し支援の方向性を話し合ったり、3か月ごとの計画の見直しでは、家族を交えてケア会議を行い、心身の状況や本人・家族の思いを汲み取った計画作成に努めている。 | 入居者様の平均年齢が91.5歳で介護度も上がっており、畑に出たり食事作りのお手伝いをしたりなどが少しずつ難しくなっています。その中で、計画の見直しのケア会議で、ご家族の思いや、一人ひとりの状況や気が付いたこと、かかりつけ医の受診情報などを反映した計画作成に努めています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別記録やケアプラン実施記録に気づきや工夫を記録したり、申し送りノートやユニット会議を通して情報を共有し実践している。また、ケア記録の電子化を導入し、記録の効率化と情報の共有に力を入れ、支援に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 管理栄養士を配置した。利用者の状況に合わせて指導をすることで、食事が量が増えたり、自力摂取が進んだり効果が出ている。引き続き、訪問歯科やPTによる指導を受けている。生活の充実のため委員会活動や行事の多様化を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 施設内での生活が長くなり、外出の機会も制限され、機能低下が見られている。個々での自立した活動は困難な方が多いが、支援しながら活動の機会と心身の力を発揮できるようにしていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 本人や家族の意向を確認し、希望する主治医を受診している。その際、身体状況や生活状況を伝えることで、医療と連携し体調管理を行っている。精神科への受診は情報提供書を提出し、内科医の往診時には各ユニット1名ずつ職員が担当し主治医へ報告している。 | ご本人とご家族の希望に沿っています。医療面で心配がないように医療連携しています。週1回の看護師の訪問支援で、相談や対応もできています。協力医の往診時には、各ユニット職員が担当して、情報の提供、職員への共有がされています。精神科への家族・職員の同行受診もあり、お薬の管理もさせて頂いています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 週に1度業務委託している訪問看護が来所し、一人ひとりの健康状態を観察している。怪我や体調不良があった場合は電話で報告相談し、指示を受け対応している。訪看護連絡ノートを活用することで、見てもらいたいことが確実に伝わり、また訪看からの指示も全職員が把握出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院機関と密に連絡を取り、退院カンファレンスに参加し、早期退院に繋がるよう施設で行える支援を具体的に提示し、情報提供に努めている。退院時には、看護サマリーやリハビリテーションサマリーを受け取り、元の生活にスムーズに戻れるように支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 重度化した場合の対応について、施設長や計画作成担当者、各ユニットリーダーが家族と話し合い、本人や家族の意向を尊重し支援できるよう努めている。主治医や、訪問看護との連携を行い、支援に繋げている。 | 入所時に重度化した場合の対応と、出来ることなどをお話しさせて頂いています。主治医や訪問看護師の医療連携、施設長や計画担当者、各ユニットリーダーなど、本人やご家族の意向を尊重して支援しています。今年度、看取りはお二人の方がおられました。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 急変時や事故発生時のマニュアルを訪問看護やリスク管理室と共に整備し、各ユニットに配備し内容を周知させることで、全職員が対応できるようにしたり、内部研修を行い学習したりしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 年2回避難訓練を実施している。地域住民の参加は出来ていない。訓練は災害時と火災を想定して行った。避難経路の確認や消火器の設置場所を周知させたり、非常食を3日分確保している。自然災害のBCPの作成も進んでいる。 | 消防署立ち合いの避難訓練を2回実施し、災害時と火事の想定をして訓練を行ったが、夜間想定は難しく行えていないので、運営推進会議でも議題に上っています。垂直避難は課題になっています。自然災害とコロナの業務継続ガイドラインを作成しています。地元の消防団など協力体制を頂ける様に期待します。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 一人ひとりの性格、生活歴、認知症状、精神状態を把握し、人格を尊重した上で利用者それぞれに合わせた声掛けを行っている。 | センター方式シートを活用し、ひもときシートも作成して、一人ひとりの性格・仕事・家族関係・生活歴、認知症状などを把握しています。利用者様をよく知ることで、人格を尊重したトイレ誘導、体操や塗り絵、散歩などの声掛けをしています。人権研修も実施しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 本人の希望やその人のリズムに合わせた生活が送れるよう声掛けを行い、自己決定を促し尊重している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 利用者一人ひとりペースが違うので、その方のペースに合わせて、食事や入浴、余暇活動など希望に沿うよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 外出時や入浴時、自ら服装の選択が出来るよう支援し、いくつになってもおしゃれする楽しさを感じていただけるよう配慮している。選択、決定が出来ない利用者には、職員が季節に合った服装を提供している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 誕生月にはご本人に食べたいものを聞いて皆でお祝いしている。行事食など手のかかるメニューの時は、利用者に作り方を教えて頂いたり、一緒に調理していただき和気あいあいと家庭的な環境の中で食事を楽しんでいる。食事の片付けも、利用者の出来ることは手伝って頂いている。毎年干し柿づくりが、恒例行事となっている。 | 季節の地物野菜や畑で採れた野菜、ご近所から差し入れの野菜果物も、食卓でなじんだ味や季節感を提供しています。お誕生日の希望メニューや行事食も、包丁を使える方に一緒に調理をして頂いたり、オープンキッチンから、美味しそうな料理の香りがして、家庭的な環境で食事を楽しんで頂いています。洗い物・食器の片づけなど、利用者様のできることで持っている能力を維持して頂いています。野沢菜漬け、干し柿づくりなどは恒例です。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 排泄・水分チェック表を用い、一人ひとりの水分摂取量を把握し、脱水症状にならないよう努めており、情報の共有もしている。管理栄養士を配置し、栄養面や口腔機能維持についても一人ひとりに合わせた食事形態を提供し、機能維持が出来るよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 毎食後、職員が声掛けし口腔ケアを実施している。口腔内を観察したり、ご本人から違和感の訴えがあった時は、協力歯科医に往診して頂き、口腔内の清潔、健康維持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したり、尿意や便意を訴えられない方のソフソフする様子が見られた時は、トイレ誘導して、トイレでの排泄が来ている。自立に向けた支援を行っている、オムツの使用量を減らすことが来ている。 | ご利用者様の状態に合わせて、また、様子を観察して、お声掛けでお誘いする方が半数おられます。ご自分から伝えてくださる方も6人おられ、布パン(尿漏れパット)の方も3人おられるなど、トイレでの排泄の自立支援に力を入れています。便秘対応の体操や、食品への配慮なども、排泄書類で確認いたしました。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 排泄水分チェック表で排便状況の管理を行い、便秘傾向の利用者には緩下剤等内服して頂いたり、オリーブオイルなど自然食品を提供したり、水分摂取を促して、自然排便につながるよう支援している。体を動かすことも便秘予防につながると理解し促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。 | 入浴の日は声掛けし、一緒に衣類の用意を行っている。入浴中は危険のないように配慮し、楽しい時間を過ごしていただけるよう会話をしながら、心地よい時間が過ごせるように努めている。拒否があった時は翌日にするなど臨機応変に対応している。 | 入浴は、楽しく心地よい時間を過ごし、ゆっくりお話が聞けるように努めています。入居者様の年齢が上がるにつれ、安全面に配慮をしています。身体的に自立した入浴ができず、リフト浴の設備もないため、もっと安全・安心を図るために、手すりを増やすことを課題にしています。湯船に入りたい希望も、工夫が求められています。 | 福祉器具を貸し出す業者のサービスなど検討し、湯船に入りたい希望に対応できるような相談を試みるなど、前向きな取り組みを期待いたします。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 一人ひとりの生活習慣や身体状況を捉えたうえで、それぞれのタイミングで自室に戻られ就寝して頂いている。気持ちよく眠れるように居室内の空調管理に配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 薬の内服の目的は理解し、副作用は説明書に目を通し理解するように努めている。今後も意識して把握していくようにしたい。内服チェック表を用い、飲み忘れや誤薬がないよう予防策を常に考え、ダブルチェックや内服の仕方も工夫をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 得意なことや好きなことを活かし行っていた事で、達成した時の表情は満足に満ち溢れている。職員が感謝の言葉を伝えると、「またやってあげるね」と生きがいが、やりがいにも通じ生き生きとした生活を送って頂いている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。 | 外出の機会が減り、施設内にいることが多くなったため、ドライブに行ったり玄関先の草花を見に行くなどして、外出する機会が増えるよう努めている。今後、買い物や家族との交流機会を取り戻せるようにしていきたい。 | コロナ禍から外出の機会が減り、また入居者様の年齢も上がり、散歩や畑に出られる機会が少なくなっています。近くのワイナリー、ファーマーズガーデンまでドライブしています。書道を習うことは継続出来ています。以前行っていた隣のスーパーへの買い物や、認知症カフェなどでの外部との交流、夏祭り、大正琴の演奏など、機会をとり戻せる様に考えていくとのことです。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 個人の金銭保管はしていない。コロナウイルスの感染予防のため、今年度買い物や外食の支援は出来ていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | ご本人から電話をすることは無いが、ご家族から電話があった時、かわってほしいと希望があればお話をする方がいる。また遠方のご家族から手紙を頂いた時は、本人に返事を書いていただき、最近撮った写真を同封してやりとりをしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 利用者にとって居心地のいい空間が作れるように、ホールの中には音や光、温度などにも配慮し、気持ち良く過ごして頂けるよう努めている。また、季節感が出るように花や手作りの作品を展示するなどして工夫している。 | 広々とした共有空間は、季節感を演出できる、バレンタイン・豆まき、ひな祭り、端午の節句、七夕、クリスマスなどに応じて、手作りの作品を展示するなど工夫されています。ホールの中には落ち着きがあり、空調は適温になって、居心地よく過ごせる様になっています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | ホールでの席は、それぞれ気の合った利用者同士座れるように配慮し、制限はしていない。思い思いに過ごして頂けるようにソファを置いて、好きな場所に座っていただく事によって、自分の居場所が作れるよう努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 昔から使い慣れている物や好みの物を置いたり、写真を飾ったりしている。棚には時計やティッシュ、櫛やハンドクリームなどを置いている。習字教室で書いた作品や、誕生日の色紙を飾って頂き、自分らしく暮らしやすい居室になるよう工夫している。 | 居室は、全室が窓に面しており、その方が家で使われていた物や、手作りの作品や家族の写真などが飾られ、身だしなみや整容のためのクリームなどが置かれています。ご家族が季節の変わり目に訪れて、寝具や服装などを入れ替えられて、暮らしやすいお部屋になっていました。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 一人ひとりの能力を活かせるよう生活空間は工夫されており、職員は少しの支援で本人の出来ることを発揮出来る関わりをしている。残存機能を維持する支援を行うことで、自分らしい暮らしが継続出来るよう工夫している。 | | |